

24/9/2（月）河村たかし名古屋市長定例記者会見（名古屋城部分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

記者：すいません。

名古屋城のですね、差別発言の検証委員会の方、検証チームの方からですね、まもなく最終報告が9月中にも出されるということで、行なってもらったんですけども、最終報告が出るまで、検証が終わるまでは名古屋城の復元化の方はストップという形で今止まっていますけれども、今後、検証結果が出た後に、木造計画も進めていきたいとお考えでしょうか。

市長：そりゃ、それはそれで私もヒアリングを受けております。

受けさしていただいて、そりゃそれちゃんと読まさせていただきます、木造復元に関しての、これ議会での議決を受けてますんでね、木もみんな切っておりますし、市民の期待も極めて大きいということがありますんで。

それはそれで、また丁寧に考えていきたいということで、なるべく早いとこせんと、いけませんからやっぱり。木も切って保管してある状況ですね。いたずらに時間を延ばすということは、市民に損害を与えることにそれはいかんということで、これからまたしっかり考えて行動したいと思います。

記者：まだ結果は出てないからあれなんですけど、バリアフリー化っていうのは引き続き課題になると思うんですけども、現状の市長のお考えとかは変わりとかありますかでしょうか。

市長：私は何べんも言っておりますように、最近また考え方も大体整理されてきたんだけど、バリアフリーというのは、いわゆるどういふのかね、文化財とバリアフリーの関係というのは、どういふものであるのかということですね。

よう考えますと。

文化財でもいろいろありますが、ランドマークになるような超一流のやつですね、法隆寺五重塔とかですね、それから熊野古道だとか、そういうのはやっぱりみんな守っていく存在なんであって。なんといいますかね、バリアフリーはバリアフリーで名古屋は世界一のバリアフリー都市を目指す、それも目指せばいいじゃないですか。

大いにそうやってやってこうと。

文化財も守っていかないかんですよこれ。文化財も。文化財みんな破壊してまってもいいという議論はあり得ませんよそれは。ということでございますので、

名古屋城ですね、天守。特別に言うべきは今の天守ですけど、他にも名古屋城でいろんなのありますけど、あれは国宝一号であって図面も完全に残ると、そんなの他に世界中にないじゃないですか、これ。

名古屋のランドマークとして文化庁も令和2年基準で、復元した建造物、木造。ちょっと長なるけどいけないけど、例えば、今回のパリオリンピック、今はもうパラやっておりますけど、そこでノートルダム寺院あんまり映らんけどね、あれなんか木造の部分燃えちゃったんですよ。だけど表から見るノートルダム寺院は、そのまま残ってます。

なぜかといえば石だからですよ。石の建物は残るけども、木造はなくなっちゃうんですよ。そうなる文化財じゃなくなるんすかね。

ほら、東洋の木の文化のそこはやっとなんかじゃないですかとなるでしょう。

そんなもんで、やっぱりそういうものはそういうもんだ。

ただし文科省が言っとるのは3つ条件があるけどね。

復元と言っても、全然違うところ作ってはいけかんけど、その真上にあった所を作る。材料は、木なら木で。鉄骨で作っちゃいかんと、木で作る。それから図面等の資料はきちっと残っとるいう場合は、それはやっぱり、ノートルダム寺院、ノートルダムキャシードルで言うんだったら、その前の石が残っておる、同じじゃないの。そう考えなきゃ木の文化の場合、無くなっちゃうということでございますので、文化は文化で、別個のきちっとした普遍的な概念ですからこれは。本物をみんなで守っていくと、あと1000年でも大事にしようよ。法隆寺1300年ぐらいありますんで1000年持つと言ったって無理なことじゃないわけですよ、というふうに私は頭の中で整理しておりますんで。

世界一のバリアフリー都市を作ると名古屋は。世界一のバリアフリー都市名古屋を作る、ええじゃないですか。

現実的に作るのもそうですし、いろんなバリアフリーのいろんな問題点も、そういう不自由な方がそういう活動で上場会社ぐらいは作っていけるぐらいのね、そういう人に入ってきてもらって、そういうのを目指していくと。

だけど文化財は、文化財でしょう。やっぱり。燃えたとしても、これは文化庁が令和2年基準で、明文を持って書いてありますから、みんな知らないわけじゃない。

意外と知らんのですわ、令和2年だからあれは俺が俺がとあんまりいいたかないけど、それは文化庁に何べんも言ったんだ。

燃えてしまえば終わりだという人たちがおるで、そうでないことをはっきり言ってもらわないといかんと文化庁にと言いまして、僕が言ったからというといけません、そういう基本的な奈良ドキュメントという思想もあって、今の三つの要件がそろった場合は、あたかも燃えなかったとみなすということですよ。

姫路城がそこにあるという話で。あまりいうと感じわるいけど、この間にNHKで番組ありましたんで、どういうやつやるかとかに見とったんだな、今日も言っていましたけど、ある人が熊本城、あそこはエレベーターを作ったときに皆な喜こんどった。熊本城はコンクリートですから、木造復元とかそういうやつじゃないですよ。

それと図面はありません。西南戦争のときに無くなったんですけど明治時代に。違うんですよ、今回の名古屋城の木造復元と、ちょっと若干これ想像力がいるんだなこれ。

それとイコモスという世界の文化の関係の人に、国やいろんな国際機関でいろんな議論されるのはいいけど地元の人意見っていうのはあんまり関係ないのかねというと、「それは違いますよ、それは」言って、「やっぱり地元の皆さんがどう考えとるかは、どえりゃ大きいですよ。」そりゃそうそうだわね。

これは名古屋城に関しては私の知っとる、いろんなこと言う人いますけど、ある意味おいてはやっぱり木造で、エレベーターもないして本物を作って欲しいと、1000年大事にしましょうという人が多いですよ。私の知っとる人では。

バリアフリーはバリアフリーで世界一のバリアフリー都市を作りましょう。

これは正しいバリアフリーの考え方じゃないですかね。

記者：ありがとうございます。

ちょっと質問の仕方が大きすぎて恐縮だったんですが、ちょっとお尋ねしたかったのは、小型昇降機を地階から1階部分までっていうところが、市長のお考えの一つがあったのかなと思っていますけれども、そのあたりを考えは変わらないでしょうか。

市長：基本的には変わっておりませんが、レポートが出てからそれまた読まさせていただいて、今言いましたけど、一方に文化財という高い峰という一つあるから。バリアフリーというのもあるわけで、妥協というものは世の中ないわけじゃないですからね。それは、そういうのはありうる。

いっぺんレポート出ましたから、なるべく早くやらんと、本当にわしも結構怒られてますわ、はよ作らんか死んでまうがやと言う人はようけいますよ。寄付した人もいますから。

記者：あの最後の質問になりますが、今早く作らんとという話だったんですが、市長の任期もあと半年ってところですね。なかなかあと半年で、あれができるってことはないと思うんですけども、任期中にどの辺りまで行けば、かなうというふうには思っていますか。

例えばは、基本設計計画もう1回ちゃんとできるとかですかね、どのあたりを目指したいところがありますか。

市長：精一杯やってきましたので今までですね、どこまでというのはあんまりないねですね。精一杯やってきて、世界で初めてじゃないですか。こんな木造復元で、こんな国宝一号で。最大の大きい城郭建築物を木造で復元していくのって。

他ではできませんけどね言ってきますけど、こんだけ資料ありませんから。いろいろやられると思いますけど、ようやってきましたけど、人生はいろんな段階で思うようになる場合もあるし、ならず死ぬ場合もありますから、しょうがないがですわ、